

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902138		
法人名	社会福祉法人かがやき		
事業所名	グループホームかがやき:1階ユニット		
所在地	旭川市末広5条2丁目4番1号		
自己評価作成日	平成25年10月2日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームでの生活が長くなるにつれて若干ずつ介護度が上昇しており、介護職員による担当制を取り、日々の変化等の把握に努めた、担当者によるモニタリングも行き、サービス計画に反映させ、日常生活の安定化に向けて取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902138-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、有限会社の事業として平成16年に開設されている。平成25年4月から、社会福祉サービスの更なる貢献を視野に、有限会社を社会福祉法人に移行し事業を展開している。運営理念に「地域との共生」を掲げ、事業所が一住民としての役割を持ちながら、地域との交流を徐々に進めている。管理者と職員は、利用者の尊厳を第一に、常に本人の身に置き換えてケアに繋げるよう取り組んでおり、利用者は穏やかに過ごしている。利用者一人ひとりに担当職員を配置し、利用者の状態変化を把握しケアに活かすとともに、担当者が主となって家族との信頼関係を構築し、本人、家族の安心に繋がっている。また、常駐の看護師がおり、医師との医療連携が24時間体制で図られ、往診も行われており看取りケアが可能な体制となっている。更に、事業所は、ケアの質の向上を目指し、全職員が様々な研修会に参加できる機会を提供して職員の育成に力を入れている。同法人が運営する隣接の有料老人ホームから様々な形で協力が得られるのも、心強い体制である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の中では理念を忘れがちになる事もあるので、ホーム内に掲示してある理念を見ながら改めて共有するように心掛けている。	ケアの心構えを盛り込んだ4つの理念を掲げ、事業所内に掲示している。管理者は、職員採用時に理念を説明し、各自が理念を念頭にケアに努めている。	理念は、事業所の目指す方向性を示すものであり、常に立ち返る原点であることを踏まえ、職員全体で常に確認し共有しながら、実践に繋げるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(観桜会、盆踊り等)に参加をしたり、散歩などで地域の方との会話をもつことで交流を持っている。	利用者が、地域の花見や盆踊りに出かけたり、事業所へ小学生の体験学習や演芸のボランティアが来訪している。事業所のバーベキューパーティーに家族や近隣の住民が参加したり、事業所が地域の清掃活動をするなど相互に交流している。年1回、家族や地域住民を招いて認知症の理解を深める勉強会を行い、事業所の機能を活かした取り組みも進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の支援方法などに関する問い合わせなどはないが、施設の見学などを通し、地域の方に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で利用者状況の報告や実施している行事への参加をもらいながらそれに対する意見等をより良いサービスに活かせるように努めている。	家族会の正副会長、町内会代表、民生委員、地域包括支援センター職員、知見者、事業所職員等で2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。事業所の運営や利用者の状況報告を始め、行事案内、避難訓練対策、外部評価結果などを説明し、そこでの意見やアドバイスをサービスに活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催する研修などへの参加を通じ、事業所の報告などをし、さらに協力関係を持てるように取り組んでいる。	市や地域包括支援センター主催の研修会に積極的に参加し、その機会に事業所の現状を伝えている。地域包括支援センターとは、日常的に協力関係ができるよう努めている。時折来訪する市のケースワーカーと、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、ミーティング等で身体拘束のないケアを周知し職員全員が同じ理解をしながら、身体拘束のない介護に取り組んでいる。	身体拘束や虐待に関する外部研修を始め内部研修を行い、ミーティング時に確認しながら職員全体で認識を共有し、拘束のないケアに努めている。身体拘束及び虐待に関する小冊子を職員一人ひとりが持ち、具体的な行為を理解しながらケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠せず、チャイムと見守りで支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待への認識を常に持ってもらい、職員同士の意見も反映させながら虐待防止努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講師を呼んでの講習で学ぶ機会はあるがまだ成年後見制などへの理解は充分理解はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定時などの時は重要事項の説明に合わせ、ご家族からの疑問や不安をしっかりと聞き、それに答えながら対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の要望、苦情また、外部の方の意見は管理者、職員が対応しているが、外部に発信する機会は特に設けていない。ただ意見箱を設けいつでも意見を書いてもらいそれを運営に反映させる準備はしている。	家族の日々の来訪や、行事等に家族が参加する機会に、担当職員が主となって本人の暮らしぶりを報告し、家族の希望や意見を聞くようにしている。また、来訪できない家族宅に職員が訪問したり、電話や手紙を通して意見収集を図り、サービスに反映するよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスを通して、管理者は職員の意見、提案を聞き、それを共有する事で仕事に反映させる様努力している。	月1回のミーティングの時に、職員の意見を聞くようにしている。日々の中で気づいたことは、日常的に管理者に伝えやすい雰囲気があり、意見やアイデアを運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の仕事に対する取り組み、努力を把握し、職員の要望や提案などを取り入れて行ける様コミュニケーションを取りながら環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、力量などを把握し、内部研修や外部研修を受けてもらいその内容や経験を職員同士で共有し、スキルアップに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターとの繋がりの中で研修、勉強会への参加により各職員同業者と意見交換する中でサービスの質についての勉強などをする事で自身も向上出来る様に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の不安な事や今望むことを聞き、安心して生活出来る状況を作る事を伝え、そこに向けて努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望などをしっかりと把握し、お互いに情報を共有しながら信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の段階でまず何が必要か、医療面や日々の生活面を含めた支援、対応をする様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、その人の暮らしの中の意思決定を尊重し、お互いに思いを共有し、共に生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族には、本人の近況や希望されている事を伝え、面会の時間や電話でのお話を大事にしなが、職員、ご家族、ご本人の絆を作っていくよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や食事をされる場所へ行ったり、昔からの知人の面会などが途切れないように支援している。	一人ひとりの馴染みの理・美容室から理容師等が来訪して散髪したり、友人が訪れている。また、家族の協力を得て家族宅に泊まったり、時には外食や墓参りなどに出かけるなど、これまでの関係が保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上手く意思疎通ができないがお話しがしたいという思いを職員が感じその思いを伝えたり、一人の時には声掛けをしたりしながら支え合う支援が出来るよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後も状況に応じ、本人やご家族の相談等に答えられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を全て受け入れるのは困難な部分があるが、出来るだけ希望に添えるよう、ご家族の協力も得ながら支援している。	日々の関わりの中で、会話やしぐさ、行動を見極めながら一人ひとりの思いを受け止め、また、家族からの情報をケース記録に残し本人の意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族にこれまでの生活歴などをわかる範囲の中で聞かせてもらい把握する事でこれからの生活の中に生かして行ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や、現在の心身の状況を職員ひとり一人が、個人記録や申し送り等で把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせる為に、ご家族、職員、そして本人の意向やアイデアを聞き取りながらアセスメントを行ない、課題や改善点を話し合い現状に即した介護計画を作成している。	月1回のケース会議で、各利用者の担当者が本人の状況、家族の意向を説明し、全体で話し合っている。家族の意向、日々の記録、ケース会議の記録を基に3ヶ月ごとにモニタリングを行い、再度全体で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。変化が生じた時は随時見直しを行い、状態が安定している場合も再検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿って日々のケアを実践し、さらに個人記録書に記入して行きながら職員間で情報を共有し、さらにその中から介護の見直しなどを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に合わせて、可能な所のサービスを取り入れるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアなどの活用としてそば打ちの実践や踊りの披露などを取り入れ少しでも日々の暮らしに楽しみを持ってもらえるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を受け、かかりつけ医を決め、本人にとって適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診を職員対応で支援し、結果を家族に報告している。家族が付き添い場合も職員が同行し、日々の状態を医師に伝えている。常勤する看護師が日々の変化を把握し医師と医療連携を図っており、適切な医療が受けられる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置し、常に利用者の細かな体調の変化も報告し、早期適切受診や看護に結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の受診時には職員が付き添い、その都度緊急な体調変化や入院となった時にも病院関係者との情報交換や相談が出来る状況を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、また体調の大きな変化があった時など段階的に終末期に向けた話し合いを持ち、本人や家族が一番望む事を理解しながら、事業所が出来ることを伝え、同じ方向性が持てるように支援、努力している。	終末期に向けた看取り指針を作成し、利用時に本人、家族に説明している。状態の変化に合わせ、関係者全体で段階的に話し合う体制も整いつつある。管理者は、利用者の高齢化が進む中、看取り対応の必要性を認識しており、看取りに近い介護を行っている。本人、家族の意向を踏まえ、医師や関係者と話し合いを重ねながら看取りを進めたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に専門知識のある方の訓練や研修を受ける事で、急変時や事故発生時にも落ち着いた対応が出来るよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し、火災や災害に対応できる様にすると共に、運営推進会議の議題に盛り込み参加してもらう事で近隣住民の方との繋がりも持ち協力体制を築くようにしている。	消防署と地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を年2回行っている。運営推進会議委員も訓練に参加し、運営推進会議の中で話し合いが持たれ、連絡網を整備している。災害時には、隣接する有料老人ホームの協力が得られる体制になっている。	災害時の避難場所を家族や関係者に周知すると共に、飲料水や防寒具などについて備蓄を検討されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格とプライバシーには最善の配慮をし、その人を傷つける事のない様に対応している。	一人ひとりの個性を大切に、特に、声掛けには留意しながら接するよう心掛けている。プライドやプライバシーに配慮し、さりげない関わりをしている。個人情報については取り扱いに留意し、適切な場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、希望する事や自己決定を出せるように会話をすること、本人のいつもの思いなどを理解するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望や受診、またゆっくりと過ごしたいなど本人の希望に添えるように可能な範囲での支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は清潔なものを心掛け、毎日の整容も声掛けしながら行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備をしたりする事は難しいが、出来る事の中でお盆拭きなどして頂いたり、食事の楽しみとして、誕生会を設けその時には、本人の一番好きなメニューをリクエストしてもらい提供し楽しんで頂いている。	食事は、系列の有料老人ホームの協力で調理されているが、嗜好調査を行いセレクトメニューを設けるなど利用者の希望も取り入れている。夏場には菜園の野菜が食卓に上がり、また誕生会には特別食も提供するなど楽しみな食事となっている。会話を楽しみながら、食事をしている。利用者の力量に合わせ、食卓やお盆を拭くなど出来ることを大切にしたい支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分を1日を通し記録し、職員はその状態に合わせて、水分などの増減を確保しながら体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し清潔を保ち、義歯に関しても1日に一度時間を決めず、利用者の状況を見ながら洗浄行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関して自立されている利用者が少なくなっている中で、利用者の出来る排泄方法を考え、時間を見ながらトイレに誘導するなどその人に合った支援をしている。	衛生用品を使う利用者が多くなっているが、一人ひとりの習慣を把握し、声掛け誘導でトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量を把握し、記録や申し送りでの排便確認を行い、主治医や看護師との連携でその人に合った予防、また対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんが希望する時に入るという事は困難だが、入浴日の中で出来るだけゆっくと楽しんでもらえるように支援している。	週2回の入浴日を設けている。入浴を拒む時は無理強いせず、時間や言葉を変えて声掛けしたり、入浴剤を入れて入浴の意欲を喚起するなど工夫しながら進めている。時には、シャワー浴で清潔を保つように、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の毎日の生活習慣に合わせて、休息やくつろげる時間を作れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診によって薬に変化がある時は必ず記録に残し、職員一人一人が確認することで利用者の変化などの確認に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分がしたいと思っている事がなかなか思うように出来なくなっているが、音楽やゲーム、毎日の体操などで気分転換となるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況を見て散歩にでかけたり、近くのスーパーに買い物に行ったりし、時にはご家族と食事や親戚の家に外出するなどして、出来るだけ希望に添えるよう協力を得ながら支援している。	事業所の周りや近隣の公園を散歩したり、病院帰りにスーパーでの買い物を楽しんでいる。季節に合わせて、地域の花見や盆踊りに参加したり、家族と思いの出の場所に出かけることもある。夏には、事業所のテラスで洗濯物を取り込んだり、外気に触れる機会を多くするよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来ない方にはご家族の了解のもと、預かり金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望する時には対応し、また家族からの手紙で近況を知る事で安心して生活してもらえる様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日過ごす場所は急に物を移動したりせず、個々の居室も家具の移動などに気をつけ、いつも心地よく過ごせる様に室内の温度やカーテンによる光の調整などを工夫している。	食卓スペースと居間が連なり、一面の壁はガラス張りである。その前に大きなソファが置かれている。食卓テーブルは利用者同士に配慮して、随時、配置位置を変更している。室内は広く、廊下に椅子を置いたり、快適な温度、湿度を保つ工夫も試み、利用者は穏やかに思い思いの場所で過ごしている。不快な音や臭いもなく、清潔で居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の時間は居室に限られてくるが、リビングのソファなどで気のあった方たちで歌を聴いたり、会話をすることで自分の時間を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みのあるものなど、入居時にご家族と確認し持って来て頂き、出来るだけ落ち着いて、心地よく生活できるように工夫している。	ベッドと洋服ダンスは、備え付けとなっている。使い慣れた家具や調度品、テレビなどが置かれ、それまでの生活が感じられる居室となっている。壁には家族の写真や思い出の品が飾られ、本人が穏やかに過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いつも使用するトイレや、各居室にはわかりやすい様に目印をつけ、車椅子や歩行時にも安全に行動出来るように段差がなく安全に配慮している。		